

宇和島市発達支援連絡会



すべての親と子が 地域の中で
安心して育ち ともに学び
自分らしく自立した生活を
送ることができる
地域づくりをめざして

- 内容
- ①R7までの取り組み
 - ②R8ワーキング部会の取組
 - ③R8ワーキング部会からの気づき
 - ④意見交換

令和8年8月21日（金）13:30～15:00宇和島市保健福祉部福祉課 発達支援センター

1

宇和島市発達支援連絡会の位置づけ

宇和島市発達支援連絡会（関係機関の代表者）

意見や助言

PDCA

取り組みの報告

次年度の各機関の取り組みに反映

課題を具体的に検討する場

関連会議・部会	検討の内容
・ワーキング部会 ・特別支援連携協議会 ・自立支援協議会 （就労支援部会等）	・早期発見、早期の発達支援 ・家族支援 ・ライフステージごとの現状や課題の共有 ・解決にむけての取り組みの検討と実行 ・人材育成 ・理解促進 ・就労支援 など

3



01 R7までの取り組み

02 R8ワーキング部会の取組

03 R8ワーキング部会からの気づき

04 意見交換

2

令和7年度 ワーキング部会

目的：とりこぼしなく安心して本人・家族が必要とする
支援が受けれるよう、早期支援システムの構築に
むけ検討する

テーマ：気づきの時点で支援者は
どう動くか どうつながるか

対象：保険健康課、就学前教育・保育施設代表

内容：ワーキング部会3回実施

- ・早期発見・早期対応の目的（再確認）
- ・各機関の現状と課題の共有
- ・自組織でできること・協働できそうなことを共有

4

早期発見・早期対応の課題

①気づきの後の連携体制の曖昧さ	②支援者の不安による躊躇	③保護者支援への不安
● 自組織だけで困り感を抱え込んでいないか？ ● 情報共有のタイミング・内容・具体的な方法は適切か？ ● 「気づき」→他の機関へ相談→支援までの流れが曖昧ではないか	● 子どもの状態像の把握や理解の難しさ ● 発達や発達障がいに関する知識・スキルは十分か？ ● 機関同士の役割を把握・活用できているか？ ● 多角的視点(ソーシャルワーク的視点)は？ ● 支援者自身のマインドセットの課題	● 保護者との信頼関係構築への不安 ● 保護者同意や個人情報の取り扱いについて ● 保護者視点で考えられているか？ ● 「社会モデル」の理解は十分か？

5

令和7年度 ワーキング部会の取組より

各機関の課題

R8～各機関で 具体的に実行していく

共通する課題

支援の届かないまま 空白の期間が発生することがある
保護者だけでなく支援者も不安を抱えている

→ R8 部会で検討していく

①連携のタイミング＝気づきの時点でどう動くかどうつながるか
・タイミング ・どの機関と ・必要な情報共有 ・役割分担

②支援者が迷わずつながる＝支援者も安心してつながる

③保護者の視点で考え支援する



支援者自身の課題や不安を解消して、保護者の安心や子育てのしやすさ、こどもの成長発達へつなげる

6



宇和島
uwajima



01 R7までの取り組み

02 R8ワーキング部会の取組

03 ワーキング部会からの気づき

04 意見交換

7

令和8年度 ワーキング部会の取組

目的:多様な子どもの育ちを地域で支え安心して
相談・共有・支援につなげるしくみを検討する。
(対応フローの検討)

テーマ:支援の空白期間をなくすための連携
～「安心してつながれる子育て支援のしくみ」を考える～

参加機関: 保険健康課、就学前教育・保育施設代表

第1回 :令和8年6月26日 参加者13名

8

R8 第1回ワーキング部会の内容

【取組の方向性の共通理解を図る】

- 1) 課題に対する今年度の取組（各機関より）
- 2) グループワーク・意見交換

9

1)課題に対する今年度の取組（保険健康課）

- ①健診後の支援の充実
- ②一人で抱えない体制を徹底
- ③保護者支援の充実
- ④発達に関する学びの継続
- ⑤5歳児健診の強化

10

1)課題に対する今年度の取組（保育所・認定こども園）

- ①子どもの姿を理解すること・保護者支援
保護者とのコミュニケーションを通じて、不安の有無を観察・対応
- ②研修の充実とテーマ設定
- ③関係機関との連携強化
おむすび相談や療育支援事業を活用。保健師との密接な連携へ
- ④職員支援の体制整備：園長や主任が相談に乗る体制づくり
- ⑤情報共有の徹底
ワーキング部会の内容や市の発達支援の動きを園内・他園に共有
保育協議会を通じて統一的な取り組みを計画
- ⑥特別支援教育コーディネーターの役割強化
コーディネーター（保育主任）を中心に園内支援体制を充実。

11

1)課題に対する今年度の取組（幼稚園）

- ①課題の共有と研修会開催
昨年度のワーキング部会でまとめた課題を市内幼稚園と共有。
7月に教師会でアタッチメントに関する研修会を予定。
- ②連携について
内部での情報共有や外部機関との連携など各園ごとに異なる課題あり。
- ③保護者同意について
保護者の同意が得られないことが課題。改善策について引き続き検討。

12

2) グループワーク・意見交換の内容

①子どもの発達のアンバランスさに気づいた後に

誰とつながるか

②どんなことが保護者の安心につながるか

③就学前施設と保健師はいつ つながると安心か

④医療や他の機関といつ つながると安心か

⑤支援者同士が安心して連携するためには

13

2) グループワーク・意見交換より (抜粋)

②どんなことを伝えたと保護者の安心につながるか

保育士・幼稚園教諭

- ・嬉しいことや楽しいことを先に伝えることで保護者の表情が明るくなる。
- ・できないことや気になることと合わせて、工夫や関わり方をセットで伝える。
- ・日々の会話や安心感のある関係性を築くことが大切。

保健師

- ・健診場面では問診で得た情報を広げながら保護者の思いを知っていく。
- ・子どもの「良い部分や視点」を積極的に伝える。
- ・「この人なら大丈夫」と思ってもらえる関係性の積み重ねが大事。

15

2) グループワーク・意見交換より (抜粋)

①発達のアンバランスさや違和感に気づいた後に誰とつながるか

保育士・幼稚園教諭

- ・同僚や上司へ そのあと保健師や発達支援センターへ
理由) **チームで考え安心感へ**。ひとりで抱え込まない。
- ・保護者へ
理由) 保護者と悩みを共有できたら支援が広がる

保健師

- ・保護者へ
理由) 信頼関係を築いて支援を広げたい
- ・保育士・幼稚園教諭へ
理由) 日々、子どもの様子を見ている。全体像を把握したい
- ・同僚 そのあと関係機関や専門機関へ
理由) **一人で抱え込まない。安心感へ**。

14

2) グループワーク・意見交換より (抜粋)

③園と保健師はどの時点でつながれると安心か？

保育士・幼稚園教諭

- ・園での共有後、保健師とつながりたい
- ・保護者は同じタイミングで気がつかない
- ・保育参観でも **他の子との違いに保護者は気にならない**
- ・ **保護者の承諾・・・難しい。ハードルがある。どうしたら気づいてもらえるか**
- ・早く気がついて不安にさせることはできない
- ・忙しそうで保健師への連絡を躊躇してしまうことがある

保健師

- ・集団と個別の間では違いがある。健診前に園から連絡あれば、より観察できる
- ・健診後の園訪問はタイムリーに行かないといけないと感じる。

共通

- ・園と保健師がつながっていることがあたりまえになればいい
- ・ **忙しそうで連絡を躊躇してしまうことがある**
- ・ **どのように保護者に気づいてもらうか**

16

2) グループワーク・意見交換より (抜粋)

④発達支援センターや医療など他の機関とつながるタイミングは？

- ・複数の目で見ても気になるとき
- ・園内で共有し、工夫するが支援に困ったとき
- ・保護者に困り感があるとつながりやすい

そのほか

- ・保護者が困っていない場合はどうするか？
(園と家庭の姿が違う場合)
- ・ハードルが高い
- ・タイミングを逃すと難しい
- ・この段階ならつなぐ・・・などの基準が分からない

17

2) グループワーク・意見交換より (抜粋)

⑤支援者同士が安心して連携(共有・相談)するには

・まずはチームで対応する

→多角的な視点が持てる。職員同士で共有し、対応を統一できる。

- ・連絡のとれやすい時間帯や担当職員を知っておく。
- ・園と保健師は常につながっているという環境になれば保護者同意が得やすい

・保護者は子どもや家族の情報が扱われることに不安があるかも

・誰が困っているのか？ → 主語は子ども

・発達支援センターにつなぐタイミングが難しい時がある

連携が難しいと感じるとき・そのほか

- ・個性と療育の判断が難しい
- ・保護者の同意がないと子どもの支援は動いていかない

18

アドバイザー 田中悦子先生からの助言

連携の前に支援者として必要な軸がある

- ① すべての子どもが過ごしやすい環境調整・社会モデルの理解を
→こどもの安心感・保護者との関係づくりにつながる
- ②全承認と無条件の愛
あるがままの姿を認める
- ③保護者との日常的なコミュニケーション
急ぎすぎず、時間をかけて信頼関係を育む。
支援者が伴走者として寄り添う姿勢を大切にする。
マイナス行動だけでなく こどもの「キラリ」を伝える
- ④愛着形成の理解
- ⑤自己覚知:支援者が自身を振り返りながら

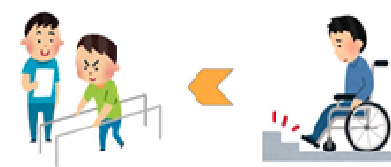
19

補足

支援は「社会モデル」の視点 で考える

「医学モデル」とは

障がいとは
個人の心身機能が原因



治療・訓練 障がいがある

「社会モデル」とは

障がいは 社会のつくりや
仕組みからくる
「社会的障壁 (バリア) 」



障がいがない
環境(社会)を
変える

20

医学モデル

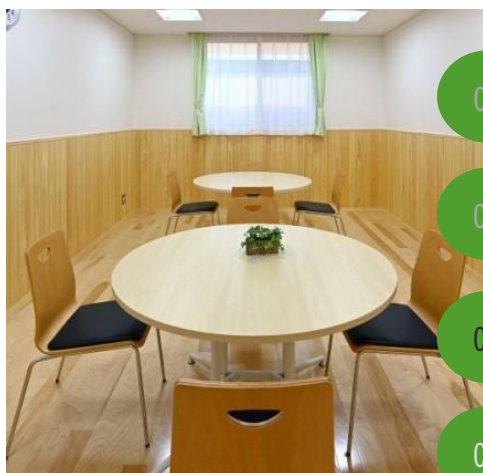


社会モデル

……現在はこちらが重視されている



子どもを変えるのではなく、関わり方・環境を変える 21



- 01 R7までの取り組み
- 02 R8ワーキング部会の取組
- 03 R8ワーキング部会からの気づき
- 04 意見交換

多様性の尊重

- *みんな違ってみんないい
- *子どもの発達の違いは「全く気にならない」「気にしない」
- *多数派に近づくことをめざさない



全承認

- *存在を承認
＝「あるがままを受け止める」

藤原里美著 「マインドチェンジでうまくいく！配慮が必要な子どもの発達支援」中央法規出版

ワーキング部会で見えてきた「大切にしたい思い」

みんなが大切にしたいのは、子どもと保護者にとってのよりよい支援



取り組む中で見えてきたこと

共有したい、一緒に考えたい、つながりたいと思いながらも
つながりにくいのはなぜ？



- ・「保護者にどう理解してもらえればいいのか。保護者と受け止め方が違う。保護者が気づいてくれない」
- ・「保護者の同意がとれないことが大きな課題。これがないと子どもの支援は動いていかない」
- ・「個性と療育の判断が難しい」
- ・「どこまで自分たちがやるのか、相手が何ができ、どこまでしているのかよく知らない。忙しいのに迷惑かけるのではと遠慮する」
- ・「そもそも、どこに、いつつなぐのか、支援者同士もどのタイミングでつながれるといいのか迷う…難しい…」 など

25

「つながりにくさ」の背景:マインド



①保護者同意の意味のとりえ方

「発達の問題を抱えた子どもを、特別な支援につなぐ」 OR
「この子と家族が、今の生活を安心して過ごすために、必要な支援を一緒に整える」

②発達凸凹のある子への支援のとりえ方

「発達の違い=問題⇒支援が必要かどうか判断する」 OR
「その子に必要な支援や環境調整を考える」

③保護者支援

「支援者側が考える支援を、保護者に受け入れてもらうこと」 OR
「保護者がその子の子育てを安心して続けられるように支えること」

④支援の出発点

「この子に問題があるから医療や療育に早くつなげたい」 OR
「この子が安心して参加・生活できるように、環境や関わりを一緒に調整する」

26

「つながりにくさ」の背景:違い

私たちの間には、さまざまな「違い」がある。

(本人⇔保護者 保護者⇔各支援者、支援者⇔支援者)

「支援」のイメージや出発点が違う

見ている視点や、大切にしていることが違う

困っていること、助けてほしいことが違う

「違い」による「ずれ」は生じていないか

27

立場による違い

支援者・関係者

同じ親子を見ても役割(専門性)・立場によって
視点:見えているもの、重視することは違う

保育園・幼稚園 集団の中や園生活をとおした 心身の育ちの保障	保健師 親子の健康・子育て全体 発達・病気の予防や早期発見
学校(教員) 学習や行動、集団適応・参加 学校生活の安定	医療 医学的診断や治療 特性・発達の専門的評価
相談支援専門員 サービス調整・制度活用 生活全体をサポート	療育者・発達支援 発達の特性理解とスキル獲得 個別に応じた成長 保護者支援
就労関係者 働くことの準備・就労・継続 マッチング、社会参加	その他の支援者 (行政・福祉・地域資源など) それぞれの視点
どれも大切な視点	

さらに…

役割や経験の違い

- ・キャリア・経験
- ・価値観・考え方
- ・専門的な知識や情報
- ・担当する役割の違い
- ・得意なこと苦手なこと
- ・組織の方針や文化
- ・そのときの余裕や状況
(不安や葛藤・ストレス)

28

立場による違い

本人

一人ひとり違う願いや
困り感・強みがある
環境の影響を受けやすい

- ・わかってほしい、認めてほしい
- ・安心して過ごしたい
- ・自分のペースややり方で成長したい
- ・自分らしく生きていきたい
- ・得意を生かし伸ばしたい
- ・自分に合ったやり方をみつきたい
- ・自分で選び、自分で決めたい
- ・自分の気持ちや考えをうまく伝えられたい
- ・注意ばかり、自己肯定感が低下
- ・疲れやすい
- ・一緒に考えてほしい

保護者・家族

子育てそのもの
24時間365日×〇年子育て休みなし
子どもの成長・幸せを一番に願う
家族の状況も様々

- ・どう対応したらよいかわからず戸惑う
- ・情報が少なく、相談先がわからない
- ・我が子のできないこと、人との違いを聞かされるばかりで、親の思いを聞いてもらえることが少ない
- ・しつけや育て方が悪いと責められる気がする
- ・将来への不安が大きい
- ・否定せずに安心して話せる人に出会いたい
- ・わかりやすい説明とみちしるべがほしい
- ・理解して、一緒に考えてほしい
- ・この子のよさも見てほしい

特別視されずに安心して育ちたい、育てたい

29

「違い」があることに 気がつかないままだと...

支援の方向や足並みをそろえにくく、
それぞれの不安感や迷いも抱えたまま
にならないか？

バラバラ...

ユラユラ...

不安定な土台

⇒みんなが不安

本人に合わない、望まない支援に
なってしまうことも(二次障害リスク)

よりよい支援にしていくための
支援の共通の基盤を持つ

「自分」と「他者」の違いを知ることが
支援の第一歩

土台を安定
させる

⇒みんなが安心

30

支援の共通の基盤 「共通して大切にしたい土台」

本人を中心に考える

本人はどう感じ、
何を望んでいるのか？
本人の視点から考える

保護者と一緒に支える

「理解してもらう」から
「一緒に考える」へ
子育てのパートナーとし
て伴走する

支援者の安心

一人で抱えない
支援者同士で語り合い、
支え合う

まず、私たち自身を知る（支援の出発点）

自分自身の見方・とらえ方を知る

- ・私はこの子を見てどう感じているのか
- ・私は何を大切にしたいと思っているのか
- ・私は何を問題と感じているのか

それぞれの立場で、見えること・見えにくいことを知る

- ・職種や役割によって見え方や得意なことが違う
- ・それぞれの強みや限界を知り、違いを尊重する
- ・違いを持ち寄ることで、良い支援につながる

31

縦横切れ目なく支援する：支援の空白をなくす



関係機関が安心してつながれるしくみ

自他の役割がわかる



相談先がわかる



つながり方がわかる



情報共有できる



早期発見・早期対応

気づく



共有する・整理する



必要な支援を始める



つなぐ・つながり続ける



一人で抱えず、つながりながら支え合う：チーム支援

共有し一緒に見立てる



一緒に考え、役割分担



それぞれの場で支える



支援の共通の基盤—土台—

32

みんな大切にしたいこと

大切なこと

- ・みんな違ってみんないい
それぞれの役割を理解し
尊重する
- ・顔の見える関係をつくる
- ・早めにつながる
- ・「違い」を理解し視点を
合わせていく
- ・情報を共有し連携して支
援する
- ・一人でがんばりすぎない
- ・思いやりを持って関わる

一番の土台は、安心していただけること
「ここにいても大丈夫」「助けてもらっていい」「失敗しても大丈夫」
と思える安心感が全ての土台

「違い」を力に変え、本人を中心に
みんなで育て、成長を支える関係へ



そのために必要なこと



対話する